

ホームとアウェイの交差

柴崎 祐美

(元福祉学科教員)

2018年度3月末をもちまして立教大学コミュニティ福祉学部を退職いたしました。在職中は格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。5年間の任期を大過なく勤めることができましたのは、ひとえに皆様方のご厚情とご指導の賜物と感謝の気持ちでいっぱいです。

4月からは、法政大学現代福祉学部で、引き続き社会福祉士の養成に従事しています。また、春学期は福祉学科から兼任講師のご縁をいただき、週に1回ですが、ホームに帰ってきたような温かい気持ちになることができました。学生のみなさんには、1月にお別れの挨拶をしたのに、春学期にはまた授業をしており「辞める辞める詐欺」になってしまいました。「(もう会えないと思って書いた)色紙を返して欲しい」とも言われましたが、絶対に返しません(笑)。そして今、春学期を修了し、立教大学を完全に離れる時を迎え、寂しさを感じながらこの原稿を書いています。

思い返せば着任した当時、立教大学にアウェイを感じていました。ここに馴染めるのか、私は受入れてもらえるのか、立教大学に愛着を感じるようになるのか、そのような思いで過ごした1年目でしたが、時間をかけながら、立教大学コミュニティ福祉学部が私にとってのホームになっていきました。いくつか振り返ってみます。

立教大学で驚いたことの一つは実習報告会です。実習を終えた学生が主体的に進めるものなのですが、その規模の大きさ、取り組む学生の熱量に圧倒されました。実習を振り返り、考え抜き、まとめ上げることは、楽しいことばかりではなく、時に辛さを感じるものです。しかし、学生のみなさんは実習報告会に向けた準備を通して、180時間の実習経験を何倍にも大きくし、学生自身も何倍にも大きく成長したように感じました。私自身は、そのように大きな変化を遂げる学生の姿を目に焼き付けながら、「私が学生さんのために出来ることは何か」「次年度の実習指導はこう進めてみよう」と次を考えるエネルギーをもらっていました。学生のみなさんに、改めて感謝を伝えたいと思います。

立教大学ではこの先もずっと大切にしたいことばにも出会いました。それはコミュニティ福祉学部の理念「いのちの尊厳のために」です。私自身が大学で学んだことは残念

ながら忘却の彼方ですが、卒後何十年経っても、覚え大切にしていることは大学の教育理念「Do for others」（新共同訳「マタイによる福音書」7章12節）です。学年は違ったとしても「Do for others」は同窓生の共通語になっています。うまく説明できませんが、大学の理念とは4年かけて体に染みついていくものだと感じています。コミュニティ福祉学部の卒業生も、授業で習った細かなことはいずれ忘れてしまったとしても、「いのちの尊厳のために」だけはいつまでも心の中に残り続けると思いますし、そうあって欲しいと思います。私も、立教大学を離れましたが、「Do for others」に加え「いのちの尊厳のために」を深く胸に刻み、人生の指針としていきます。

立教大学で後悔していることもあります。それは新座キャンパスの礼拝参加です。チャペルアワーに参加したいと思っていましたが、結局、年に1回、3月11日「東日本大震災の記念の祈り」にしか参加しませんでした。毎日、チャペルの前を通りながら、もったいないことです。しかし、年に1回であっても、震災によって苦しむ人々に助けと励ましが与えられるように、そして我々もこの人々のことを思い出し助け合う心を持つことができるようにと、祈りの時を持つことができたことに感謝しています。これから先も、3月11日には立教大学のチャペルで「記念の祈り」がささげられていることを覚えて、心を合わせたいと思っています。

さて、2018年4月、法政大学に転籍しました。「同じMARCHだし、大学も学生の雰囲気も似ているでしょ」とよく言われますし、私自身もそう思っていた節がありますが、想像以上に違いました。アウェイに一人放りこまれた気分です。そして大学には文化があるのだということを肌で感じました。教授会、教務委員会、実習委員会と耳にする会議体は一緒ですがそこに流れる空気と内容は異なります。基礎演習、実習指導、社会福祉援助技術演習と担当する科目も一緒ですが求められる内容、学生の反応は異なります。今は、目の前のことに必死に取り組む日々を送っていますが、法政大学に脈々と流れる文化の中に身を置き、先生方、学生さんと時を共有する中で、この場所が私にとってのホームになっていくのかと感じています。

では、次に新座キャンパスを訪ねた時、アウェイと感じるか、ホームと感じるのか。少なくとも、毎年の「コミュニティ福祉学会まなびあい年次大会」は、私自身が、立教大学をホームとしていた時代があったことを思い出させてくれる場になると思います。

最後に、「コミュニティ福祉学会まなびあい」が護られ、卒業生や退職教職員のホームとしていつまでも輝き続けますように、遠く多摩キャンパスよりお祈りいたします。5年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。